

ลมจากกรุงเทพฯ

バンコクの風



JSPS

BANGKOK

NEWSLETTER

2019-20 Vol.2



Phi Ta Khon Festival

เทศกาลผีตอแหล (ร้อยเอ็ด, ไทย)

วันที่ 8 - 10 กรกฎาคม 2562

JSPS BANGKOK

CONTENTS

JSPS主催事業説明会の開催	01	センター活動記録	26
バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント	04	コラム	27
JSPS同窓会情報	20	学術情報 (2019年7月-9月)	30
特集「タイにおけるJICAの取り組み～大学の皆様との連携の可能性」	22		
独立行政法人国際協力機構タイ事務所長 宮崎 桂			

センター長挨拶

バンコク研究連絡センターの活動報告書「バンコクの風」の2019年度第2号（2019年7－9月分）をお届けします。

バンコクセンターは、世界20か国にある JSPS 同窓会のうち、先月の役員会で承認されたマレーシアを含めて6か国（タイ、バングラデシュ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア）を所管しています。このうちタイとバングラデシュを除いては私がセンター長として着任した7年前以降に設立されたもので、その設立に多少とも関わることができたことは感慨深いものがあります。そしてその同窓会の運営に中心的に関わっておられる役員（理事）の方々と日常にお付き合いする中で、「人徳」の大切さを思い知らされます。徳のある人のまわりには多くの人が集まり、そのヒューマンネットワークがまた同窓会を支えているのです。

この人徳について、元号「令和」を考案された中西進先生が朝日新聞のインタビューで語っておられる言葉を思い出しました。先生が東大に入学した折のお父上（高名な俳人でもある）のアドバイスが、大学生活で大事なものは、学問ではなく（それは、本を読めばできる）、友人を一杯つくることだと。（以下先生の言葉を引用します）

「父の言葉から思い当たったのは「徳は孤ならず必ず隣あり」という論語の一節だ。「徳がある者は孤立することがなく、助力する人が必ず現れる」という意味だが、人徳がないと、孤独になる。だから「徳を積み」という教えにも感じた。

生涯の友を通じて「徳を積む」ことの意味も深めてきた。「徳」の字は行人偏（ぎょうにんべん）だから「おこない」という意味を持つ。旁（つくり）は「十」に「目」、さらに「心」だから、「真心（まごころ）」の意だという。「徳」とは、「真心を持ったおこない」のことだ。「徳を積む」ことの意味や、人生の目標がはっきりとしてくる。具体的に考えると、人生が楽になります。生きてゆくことは、自己をつくるという勉強を重ねることですね」

2019年10月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長

山下 邦明

JSPS 主催事業説明会の開催

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育や研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターが訪れた機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

スコタイタマティラートオープン大学で JSPS 事業説明会を実施（7月4日）

2019年7月4日（木）、スコタイタマティラートオープン大学で JSPS 事業説明会を実施しました。この大学は「公開大学」の形式をとっています。学生に対して、キャンパス内での講義を原則行わない一方、スマートフォンやパソコンで視聴可能なコンテンツを配信するなど、特色のあるプログラムを展開しています。

この度は、JAAT 会長の Prof. Dr. Porphant のお招きで、事業説明会が実現しました。

最初に、Prof. Dr. Prasart Suebka スコタイタマティラートオープン大学学長から歓迎のご挨拶をいただきました。日本とタイの友好の歴史は長いと、日泰の研究者同士で、更にコラボレーションを進めてほしいと、研究者の方々にメッセージを送っていました。

説明会では、山下センター長・富山副センター長から当会の概要・同窓会組織の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。

続いて、当会の外国人招へい事業経験者でもある、Prof. Dr. Porphant から、ご自身の経験をお話しいただきました。タイ語での講演でしたが、京都大学での研究生活等についてお話され、参加者はメモを取りながら聞き入っていました。

質疑応答では、申請回数の多寡は、採択の可否に関係があるかといったことや、日本人研究者とつながりを持つための方法について、特に多くの質問をいただきました。当会の事業への高い関心を感じるとともに、そのような疑問に直接お答えできる事業説明会の重要性を再認識した一日となりました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/07/04/7849/>)

JSPS 主催事業説明会の開催

タマサート大学シリントーン国際工学部で JSPS 事業説明会を実施（7月23日）

2019年7月23日（火）、タマサート大学シリントーン国際工学部（SIIT）ランシットキャンパスで JSPS 事業説明会を実施しました。

今回の事業説明会の開催には、SIIT の准教授でいらっしゃる浜田良樹先生にご協力いただきました。浜田先生は、ご勤務の中で、SIIT の研究者から、JSPS の事業に関する多くの相談を受けていたそうで、今回の事業説明会の開催を当センターへご提案くださいました。

当日は、当初の予想を大きく上回る数の参加者が出席されました。また事業説明会の様子は、バンガディキャンパスにも、テレビ会議システムを通して中継されました。

最初に、SIIT 学長の Prof. Dr. Pruettha Nanakorn が開会の挨拶をされました。

続いて、山下センター長・富山副センター長から当会の概要・同窓会組織等の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。

参加者との質疑応答は、予定時間を越えて行われました。

さらに、事業説明会終了後に質問に来る方も多くいらっしゃり、SIIT において JSPS 事業へ関心が高まっていることを感じました。



Prof. Dr. Pruettha Nanakorn (左)



浜田良樹先生 (右)

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/07/23/7906/>)

JSPS 主催事業説明会の開催

ブラパー大学で JSPS 事業説明会を実施 (8月30日)

2019年8月30日(金)、ブラパー大学バンセンキャンパスで JSPS 事業説明会を実施しました。この大学は海洋生物の研究に強みを持ち、キャンパス内には水族館を併設しています。



Asst. Prof. Punwalai Kewara

最初に、ブラパー大学の Assistant President for International Relations である、Asst. Prof. Punwalai Kewara が開会の挨拶をされました。

ブラパー大学でも、日本との研究交流への関心は非常に高いため、今後も日本との交流を続けていきたいとお話がありました。

続いて、山下センター長・富山副センター長から当会の概要・同窓会組織等の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。

そして、日本学術振興会の論文博士号取得希望者に対する支援事業 経験者の Dr. Khwanruan Srinui に、ご自身の経験をご講演いただきました。

広島大学の、生物生産学部の付属練習船を利用した経験や、日本の研究者と共に活動した内容、そして日本文化や和食に親しんだことを

心を込めて語ってくださり、有意義なご経験になったことがうかがわれました。

今回の説明会の参加者は、メモを熱心に取りながら情報収集に努めておられ、当会事業への申請を検討しているという声も多く聞かれました。



Dr. Khwanruan Srinui (右)

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/08/30/8141/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

バンコク研究連絡センターでは、対応機関であるタイ学術会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、バンコクで実施される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、ASEAN地域の最先端の学術情報の収集に努めています。

上智大学 Sophia GED 設立記念シンポジウムに出席（7月12日）

2019年7月12日（金）、バンコクのThe Siam Societyで開催された上智大学 Sophia Global Education and Discovery（Sophia GED）設立記念シンポジウムに出席しました。

上智大学は学生、研究者の教育・研究の流動性を高めることを目的に、2015年からバンコクに「上智大学 ASEAN ハブセンター」を設置していましたが、ASEAN ハブとしての更なる役割と機能強化をめざし、2019年4月、Sophia GED というタイ商務省から認可を受けた法人として、体制を新たにしました。

シンポジウムでは青柳 茂ユネスコ・バンコク事務所による基調講演「Future of Higher Education as Life-Long Learning Process in the Era of SDGs and Beyond」が行われました。パネルディスカッションではタイに拠点を持つ日本の大学関係者や、タイの大学教員、カンボジア教育・青少年・スポーツ省の職員らパネリストにより、「What Universities' Overseas Offices Can Do?」をテーマに討論が行われました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/07/12/7896/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

明治大学アセアンセンターを訪問 (7月25日)

2019年7月25日(木)、明治大学アセアンセンターを見学させていただきました。

明治大学アセアンセンターは2013年5月に、シーナカリンウィロート大学の建物内に開設されました。明治大学の国際化を推進し、日本とASEAN諸国双方のグローバルリーダーの育成に取り組んでいるということです。また、JUNThaiの加盟校であり、当センターも交流させていただいています。

この度、スタッフのWilailuck Tangsirithongchaiさんのご招待を受け、富山副センター長、臼井国際協力員、濱端国際協力員がご訪問させていただきました。

当日は、Wilailuckさんと、スタッフのTanawan Srisuknimitさんからご案内をいただきました。

明治大学アセアンセンターでは、シーナカリンウィロート大学との共同講座を開くための教室や、留学生が自由に利用できるような会議室などを提供しています。設備の充実度が印象的でしたが、Wilailuckさんは、出来ることはまだまだあるので、さらなる設備の拡充、および新しいプロジェクトの推進に取り組みたいと仰っていました。

当センターからは、事業パンフレット等をお渡しし、引き続き情報提供等で、タイに拠点を設置する日本の大学を支援していくことをお伝えしました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jps-th.org/2019/07/25/7922/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

AUN-SUN/SixERS スタディツアー2019 の来訪（8月14日 午前）

2019年8月14日（水）午前、ASEAN University Network（AUN）と国立六大学連携コンソーシアム（構成大学：千葉大、新潟大、金沢大、岡山大、長崎大、熊本大）のスタディツアーの一環として、学生約20名が来訪されました。

当日は、当センターと、同フロアに事務所を構える国際交流基金（Japan Foundation）および日本学生支援機構（JASSO）が、各組織の概要や業務内容についてプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションは、以下の3名で行いました。

国際交流基金：松尾優一 日本研究・知的交流部長

日本学生支援機構：Nuntaporn Chuenkrathok Educational Advisor

日本学術振興会：濱端 国際協力員



続く質疑応答の時間には、タイ人は日本人に対してどのようなイメージを抱いているのか、といった素朴な疑問から、日本の国際化に対する考え方まで、予定の時間を超えて大変多くのご質問をいただきました。

国際交流や海外で働くことへの関心が高い学生が多く、プレゼンテーションをお聞きいただいて、有意義な時間を提供することができたなら幸いです。

最後に、国際交流基金の図書館と、JSPS および JASSO オフィスをご見学いただきました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2019/08/14/8069/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

明治大学スタディツアーの来訪（8月14日 午後）

2019年8月14日（水）午後、明治大学のスタディツアーの学生約20名が来訪されました。

当センターと、同フロアに事務所を構える国際交流基金（Japan Foundation）および日本学生支援機構（JASSO）が、各組織の概要や業務内容についてプレゼンテーションを行いました。

当日は、以下の3名がプレゼンテーションを行いました。

国際交流基金：桑原輝 文化芸術交流部長

日本学生支援機構：Nuntaporn Chuenkrathok Educational Advisor

日本学術振興会：臼井 国際協力員

プレゼンテーションでは、日本学生支援機構が留学志望者に出題する試験問題を、学生がその場で解いてみる時間を設けるなど、工夫を凝らして行われ、学生も興味を持って聞いてくれたようでした。

続く質疑応答の時間は、プレゼンテーションを行った3名に対して、それぞれが思い描く国際交流のイメージについて質問をいただく等、興味深い内容となりました。

午前中のスタディツアーに引き続き、国際交流について自ら学ぼうとする学生の姿勢が印象的でした。

最後に、JSPS および JASSO オフィスをご見学いただきました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2019/08/14/8083/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

タイ国科学技術博覧会 2019 に参加 (8月16日～25日)

力員、濱端国際協力員が出席しました。

同博覧会は、タイ高等教育科学研究イノベーション省 (MHSRI) とタイ国立科学博物館の共催で開催されており、例年 100 万人を越える来場者を集める大規模イベントです。タイ国内・国外問わず多くの研究機関・大学・民間企業等が参加し、最新の研究等についてブース出展を行っています。



各ブースは、体験型の展示が多く、参加者が楽しみながら科学技術に関するトピックに親しめる内容になっています。

当センターは例年に続き「ジャパンパビリオン」内でタイに事務所を設置する日本の大学等教育関係機関のポスターを掲示しました。

今年のオープニングセレモニーで挨拶をされた Dr. Weerapong Paesuwan (Chairman of the Advisory Committee of MHSRI) はセレモニー終了後各ブースを視察され、当センターも、タイにおける日本の大学と、タイとの繋がりやの深さを直接ご説明することが出来ました。

Dr. Weerapong Paesuwan (左)

今回のイベントで幾度と聞いたのが、タイにおいても技術開発、および科学に強い若者の育成や社会イノベーションが喫緊の課題となっており、取り組みが急がれるということです。

この科学技術博覧会も、そのような取り組みの一つとして大きな役割を果たしていることを会場で感じました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/08/17/8089/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

第20回在タイ大学連絡会 (JUNThai) に出席 (8月26日)

2019年8月26日(月)、在タイ日本国大使館で第20回在タイ大学連絡会 (Japanese Universities' Network in Thailand: JUNThai) が開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、臼井国際協力員、濱端国際協力員の4名がオブザーバーとして出席しました。



宮崎 桂氏

第1部の講演会では、「JICA の取り組み(タイを事例に)、そして大学の皆様との連携の可能性について」と題し、宮崎 桂 JICA タイ事務所長にご講演いただきました。

講演のなかでは、「中進国の畏」や、タイ国内の経済格差などをキーワードにして、JICA の取り組みを丁寧にご説明くださいました。

また、JICA の国際事業の応募に関して興味のある方は、各国のJICA 事務所を訪問頂きたいとコメントがありました。応募内容に関して、アドバイスなどをご提供頂ける可能性があるということです。

第2部では、日本学生支援機構 (JASSO) の Nuntaporn Chuenkrathok Educational Advisor から、8月24日と8月25日に開催された Study in Japan Fair 2019 (Thailand) について報告がありました。

8月24日は、チェンマイで開催され、参加者は566人となりました。8月25日にはバンコクで開催され、参加者は2,605名と、昨年度から約20%増となったそうです。

連絡会終了後、今回で開催20回目となるのを祝し、出席者全員で記念撮影を行いました。

今回も当センターをはじめ、多くの参加者が情報交換を行い、実りのある会となったようでした。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/08/26/8125/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

九州工業大学スタディツアーの来訪（9月2日）

2019年9月2日（月）、九州工業大学の学生約20名が来訪されました。九州工業大学は、Thailand SDGs Study Program と題して、タイでスタディツアーを実施しています。

当センターと、同フロアに事務所を構える国際交流基金（Japan Foundation）および日本学生支援機構（JASSO）が、各組織の概要や業務内容についてプレゼンテーションを行いました。

当日は、以下の3名がプレゼンテーションを行いました。

国際交流基金：松井優樹 次長兼日本語部長

日本学生支援機構：Nampeung Samadeh Educational Advisor

日本学術振興会：濱端 国際協力員

国際交流基金のプレゼンテーションでは、学生参加型のゲームを通して、文化交流の重要性を学びました。学生も、自分の頭を使いながら、楽しみながら取り組んでいました。

そのうえで松井次長から、国際交流基金の任務とは、文化交流を通して、日本の世界外交に貢献することであるとご説明がありました。

学生からは、仕事のやりがいに関する質問や、国際的な仕事をして活躍するために、大学時代にどのようなことに取り組むべきか質問がありました。学生が、スタディツアーを通じて、自らの将来を真剣に模索している様子が伺えました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/02/8156/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

京都産業大学スタディツアーの来訪（9月3日）

2019年9月3日（火）、京都産業大学の具 経営学部長と、大杉准教授の引率で、京都産業大学の学生約20名が来訪されました。

この日は当センターと、同フロアに事務所を構える国際交流基金（Japan Foundation）および日本学生支援機構（JASSO）が、各組織の概要や業務内容についてプレゼンテーションを行いました。当日は、以下の3名がプレゼンテーションを行いました。

国際交流基金：脇谷知彦 「日本語パートナーズ」事業部長
日本学生支援機構：Nampeung Samadeh Educational Advisor
日本学術振興会：臼井 国際協力員

国際交流基金の脇谷部長からは、日本語パートナーズの取り組みについて、重点的にご説明いただきました。この事業では、参加者を諸外国へ派遣しますが、東南アジアにおいて、派遣者の数ではタイが2番目となるそうです(85名)。

学生の興味も惹き付けられたようで、脇谷部長から、東南アジアのいまを感じる良い機会になるので、ぜひ申し込んで頂きたい、とお話がありました。

この日の参加者は、海外が初めてという大学1年生の割合が多く、みな緊張した面持ちでした。しかし海外で働くことも含め、自分の人生について真剣に検討している様子が感じられました。

京都産業大学の具 経営学部長も、今日の話をも胸にしまっておいて、ぜひ有意義なキャリア選択してほしいと、学生にエールを送っていらっしゃいました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jps-th.org/2019/09/03/8163/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

大阪大学スタディツアーの来訪（9月4日）



2019年9月4日（水）、大阪大学生物工学国際交流センター（ICBiotec）の三崎 亮講師と同大学大学院工学研究科の学生22名が来訪されました。

大阪大学では例年タイで海外フィールドスタディー「生物資源と環境」を実施しており、プログラムの一環として、昨年につき今年も当センターをご訪問いただきました。

始めに当センターを始め同フロアにオフィスを構える国際交流基金（Japan Foundation）、日本学生支援機構（JASSO）の施設見学を行った後、各組織の業務説明を行いました。当センターからは山下センター長が冒頭挨拶を行い、富山副センター長がJSPSの概要や事業について説明を行いました。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2019/09/04/8149/>）

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

The 6th UEC Seminar in ASEAN に参加 (9月7日)

2019年9月7日(土) The 6th UEC Seminar in ASEANが、バンコクのラジャマンガラ大学で開催され、当センターからは富山副センター長、臼井国際協力員、濱端国際協力員が参加しました(UEC=電気通信大学)。

今回のセミナーでは、インドネシア、ベトナム、タイ、そして日本など、諸外国から研究者の参加がありました。

最初に石橋孝一郎 UEC ASEAN 教育研究支援センター長が開会の挨拶を述べました。

日本電気通信大学の歴史から始まり、今日においては東南アジアの研究者との繋がりを重視しているため、今後も、良好な関係を発展させていきたいとコメントされました。

次に、在タイ日本国大使館の久芳一等書記官がご挨拶され、タイには、日本の研究機関が拠点を数多く置いている点を言及されました。

そのうえで、AI 研究の世界においては、開発競争が特に目覚ましいため、今回のような「研究」と「社会実装」を担う人々が一堂に会するイベントに大きな期待をしていると仰っていました。

今回のセミナーでは、数多くの研究者が登壇し講演が行われましたが、「Part1 UEC Section」では、「ECTI における行政機関との関係構築の取り組み」として、高橋隆司 電気通信大学客員教授に、当センターに関してご紹介を頂きました。

セミナーは多くの参加者を集め、盛会のうちに幕を閉じました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/07/8193/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

10月渡日国費留学生壮行会に参加（9月9日）

2019年9月9日（月）、在タイ日本国大使館大使公邸で10月渡日国費留学生壮行会が開催されました。当センターもご招待いただき、当日は、富山副センター長、濱端国際協力員が出席しました。

冒頭、佐渡島志郎 大使より開会の挨拶がありました。

佐渡島大使は、日本は、研究生活に最も適した国の一つであり、タイの優秀な学生が、数多く日本へ留学されることは大変嬉しいと述べられました。ぜひ、日本の生活を思い切り楽しみ、自らの学問の世界を開いてほしいと、留学生に言葉をかけました。その上で、タイから日本への留学生の数は、まだ伸びしろがあるので、留学生自身が日本留学の魅力を発信し、タイから日本へ留学したい人が更に増えるようにしてもらいたい、と協力を呼びかけていらっしゃいました。

次に、Ms. Jeeraporn Chuawattana から挨拶がありました。日本での留学生活においても様々なチャレンジをし、悔いのない学生生活をしたいと、思いを新たにしている様子でした。また、奨学生一同を代表して、今回の奨学金への感謝を述べました。

会の最後に Old Japan Students' Association, Kingdom of Thailand (OJSAT), President の Dr. Prakrit Tangtisanon が挨拶され、奨学生を激励しました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/09/8179/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

8th Joint Student Seminar on Civil Infrastructures に参加 (9月12日)

2019年9月12日(木)、Asian Institute of Technology(AIT)で開催された8th Joint Student Seminar on Civil Infrastructures に参加しました。AITのキャンパス内には自然が多く配置され、快適な研究環境が整備されている点が印象的でした。

今回のセミナーは、50人以上の参加者がありました。また日本、タイだけでなく、インドやミャンマーからの出席者がありました。

最初に、Prof. Dieter Trau が歓迎の言葉を述べ、AITは、研究のための設備や、研究者同士で意見を交流できるスペースが整っているため、研究に最適なスペースであると紹介されました。そのうえで、出席者には、今回のセミナーの機会を利用して、研究を進めてほしいと仰っていました。

次にProf. Pennung Warnitchai が挨拶し、今回の出席者の業績を紹介しました。さらに学生に対して、様々な機会を捉え、自らの研究者としてのキャリアを築いてほしいと激励の言葉を述べられました。

また、JAXAバンコク駐在員事務所 辻所長が講演され、アジアにおけるJAXAの活動についてご説明されました。

当センターからは山下センター長が「Research opportunities in Japan」と題し、JSPSの概要と活動を紹介しました。また、出席した学生たちの参考にしてもらおうと、JSTなど、日本に設置された組織機構について説明しました。そのうえで学生に対して、各種制度を、自らのキャリアに応じて積極的に利用してほしいと呼びかけられていました。

最後に、本セミナーのコーディネーターである東京大学生産技術研究所 竹内教授にご挨拶させていただきました。竹内教授はバンコク研究連絡センターで、2010年から2012年までセンター長として勤務されています。



東京大学生産技術研究所 竹内教授(左)

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/12/8201/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

GMS-UC 第2回学長フォーラムに出席 (9月16日)

2019年9月16日(土) Grand Sukhumvit Hotel Bangkok で開催された“The Project on Support for Capacity Building of the GMS-UC (Phase 1):The 2nd Rectors Forum of Greater Mekong Sub-region University Consortium”に当センターから山下センター長、富山副センター長、臼井国際協力員が出席しました。

GMS-UCはメコン川流域の東南アジア諸国(ミャンマー・ラオス・タイ・カンボジア・ベトナム)の大学で構成するコンソーシアムで、地域内の国境を越えた協力を強化・推進するプラットフォームを提供することを目的としています。

SEAMED-RIHEDはGMS-UCメンバー間で共通の問題に従事するため、日アセアン統合基金(JAIF)の枠組みのもと、ASEANの支援を受け、2018年に2年間のプロジェクト“Support for Capacity Building of the Greater Mekong Sub-Region University Consortium (GMS-UC) (Phase 1)”を立ち上げ、様々なワークショップ等を各国で開催してきました。今回のフォーラムはプロジェクトの最後のイベントとして、これまでの活動を振り返り、成果を確認・共有することを目的に9月16日、17日の二日間に渡り開催されました。

当センターが出席した1日目の冒頭ではASEAN日本政府代表部より宮澤武志一等書記官も挨拶を述べられた他、プロジェクト・エキスパートらのパネルディスカッション等が行われました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/16/8217/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

Thailand Ageing Strategic Forum 2019 に参加（9月25日）

2019年9月25日（水）、Thai Health Promotion Foundationにて、Thailand Ageing Strategic Forum 2019が開催され、JSPS タイ同窓会（JAAT）の会員でもある Director of Ageing Business and Care Development Centre, Duangjai Lorthanavanich Ph. D. からのご招待で、富山副センター長、濱端国際協力員が出席しました。

最初に、Executive of Thai Health Promotion Foundationである、Assoc.Prof. Dr. Pipop Udornが開会の挨拶を述べました。その中で、健康寿命を伸ばしていきたいと考える人々が、タイでも大幅に増加していることに言及され、その取り組みを考えるための一つのきっかけになればと、このセミナーの意義を強調されました。さらに、タイの若者が子供を作らたがらない傾向に触れ、タイ王国として、少子化や労働力不足という問題に直面していることに言及されました。

Thai Health Promotion Foundationは、そういった問題への解決策を研究、提案する取り組みを続けていくということです。

次に、Prof. Dr. Prawase Wasiが、‘Thailand Graceful Ageing Strategy’ と題して貴重講演を行いました。当氏が、タイトルを Graceful Ageing としたことは大きな意味があるそうです。

今後、タイが全体的に高齢化する中で、国民をとりこぼさない方策をとることが、理想的な社会の実現に必要であると仰っていました。

その上で、タイでも各種取り組みが行われているが、今後は、ピラミッド型の中央集権的な方策ではなく、地域コミュニティや、平等性を追及する取り組みが大切であると述べられました。

その後の講演は、第1部 ‘Government and Public Sector Preparation’、第2部 ‘Business and Industry Sector Preparation’ で構成され、どちらも多くの参加者を得て大変盛況でした。



Dr. Duangjai Lorthanavanich (中央)

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/25/8227/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

東海地方に位置する大学職員海外研修グループの来訪（9月26日）

2019年9月26日（木）、東海地方に位置する大学の事務職員で構成される、海外研修グループが当センターを来訪されました。

この日は、富山副センター長、濱端国際協力員がプレゼンテーションを行いました。

最初に、富山副センター長がJSPSの概要や国際事業について説明しました。

次に濱端国際協力員が、JSPS国際学術交流研修について、自身の経験や感想を交えながら情報をお伝えしました。

ご質問も多数いただきました。当センターからは、二国間交流事業の採用に関する情報から、大学事務職員のキャリア形成に至るまで、幅広く情報提供させていただきました。

参加者された方々は、勤務されている大学の部課は様々でしたが、それぞれの視点および業務に立ち、関心をもってお聞きくださったようでした。

参加者からは、JSPSへの理解が深まったことや、国際学術交流研修について有意義な情報を得ることが出来たとの感想を頂戴しました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/26/8238/>)

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

第20回在タイ大学連絡会 (JUNThai) に出席 (9月30日)

2019年9月30日(月)、在タイ日本国大使館で第21回在タイ大学連絡会 (Japanese Universities' Network in Thailand: JUNThai) が開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、白井国際協力員、濱端国際協力員、Natthida リエゾンオフィサーの5名がオブザーバーとして出席しました。

第1部の講演会では、以下の3つの講演が行われました。

◆ 「National Research Council of Thailand and the Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation (MHSRI)」

Prof. Dr. Sirirurg Songsivilai

(Secretary General, NATIONAL RESEARCH COUNCIL OF THAILAND (NRCT))



タイ政府は、教育省の下にあった高等教育局と、科学技術省を合併させ、新しく「高等教育・科学・研究・イノベーション省」、MHSRI となりました。

「タイ学術会議 (NRCT)」は、この新しい省に移り、学術研究支援の中核的な組織として機能しています。

今回の講演では、新しい省のミッションや新体制での NRCT の研究助成の在り方等についてご講演いただきました。

◆ 「The Project on Support for Capacity Building of the Greater Mekong Sub-region University Consortium」

小嶋 緑 (Senior Programme Officer and JAIF Project Manager, SEAMEO RIHED)

◆ 「東工大のタイでの活動 - TAIST を中心として - 」

大即信明 (東京工業大学名誉教授)

3名の講演者には、JSPS バンコク研究連絡センターより、記念品を贈呈しました。

第2部では、連絡会が行われ、主に「次期幹事について」「運営指針案について」、協議を行いました。

事務局幹事校は、京都大学が担います。幹事校には、金沢大学が退任し、山口大学が新しく就任しました。幹事校は、山口大学・横浜国立大学・上智大学・東亜大学となりました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jps-th.org/2019/09/30/8253/>)

バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・ Bangladesh・フィリピン・ネパール・インドネシア JSPS 同窓会の活動支援、また、ベトナム・マレーシアでの新規同窓会設立に向けても支援を行っています。

2019 年度第 2 回 JSPS タイ同窓会 (JAAT) 理事会に出席 (7 月 24 日)

2019 年 7 月 24 日 (水)、今年度第 2 回目の JSPS タイ同窓会 (JAAT) 理事会をタイ学術研究会議 (NRCT) で開催しました。

理事会では、主に以下の点について議論を行いました。

1. 前回 (2019 年 5 月 15 日開催) の JAAT 理事会及び総会の議事録の承認
2. 環境問題に関するキャンペーン (@チェンマイ大学) への協力について
3. JAAT 年次総会の開催等について
4. Workshop on manuscript writing の開催について

理事会の中で、JAAT 年次総会は、バンコク研究連絡センター設立記念セレモニー等と同時開催とし、2020 年 2 月 21 日から 22 日にかけて実施することになりました。

NRCT、JSPS および JAAT のジョイントセミナーも、同日に行われます。

次回の JAAT 理事会は、10 月 9 日に開催される予定です。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/07/24/7918/>)

JAAT Writing Manuscript for Publication seminar に参加 (9月11日)

2019年9月11日(水)、JSPSタイ同窓会(JAAT)の主催で”JAAT Writing Manuscript for Publication seminar”が開催され、当センターからは富山副センター長と濱端国際協力員が出席しました。

このセミナーは、タイ各地から研究者が集まり、学術論文の執筆において重視すべきポイントを共有し、さらに、研究者同士の交流を深めることを目的に開催されています。今回は約70名の参加がありました。

日本と異なり、学術論文の書き方は各大学においてはレクチャーしていないため、今回のようなセミナーは、タイでは貴重な機会として捉えられているということです。

最初に、NRCTを代表して、Ms Tiwa Ngaowichitが開会の挨拶を述べ、今回のような機会を利用し、効率的に研究を進めてほしいと述べられました。

次にJAAT presidentのDr. Porphant Ouyyanontが挨拶しました。この日、予想以上の参加があったことをご紹介されました。また、JSPSスタッフの出席にも言及頂きました。

その後、”medical sciences”, ”social sciences”, ”sciences/technology”の3つの分科会に分かれワークショップが実施されました。

講演者は、学術論文のタイトルの設定の仕方から、研究成果の効果的な書き方まで、たとえ話を交えつつ熱心にアドバイスしていました。

また聴講者も、非常に意欲的にメモをとっており、会場からは、出席者の熱気を感じることができました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2019/09/11/8242/>)

今回の特集では、独立行政法人国際協力機構タイ事務所の宮崎 桂所長に、「タイにおける JICA の取り組み～大学の皆様との連携の可能性」と題して、ご寄稿いただきました。

※寄稿の記事・論文、図表、写真等の著作権は執筆者に帰属しています。無断複製又は無断転載はおやめください。

タイにおける JICA の取り組み～大学の皆様との連携の可能性

独立行政法人国際協力機構タイ事務所長 宮崎 桂

1. はじめに

皆様もご存知のとおり、JICA は主に途上国の開発を担う日本の援助機関です。その JICA が、既に所得階層で上位中所得国に分類されるタイにおいて果たす役割とは何でしょうか。私自身、日々自らに問いかけながら仕事をしています。当機構では近年頃に後述する開発大学院連携や地球規模課題に対応する科学技術協力 (SATREPS)¹をはじめとした各種協力手法を通じ、大学や研究機関の皆様との連携を強めております。本日は、タイにおける JICA の取り組みをご紹介します。悩みも吐露しながら大学の皆様の連携の可能性について触れてみたいと思います。

2. もはや途上国ではないタイ

申し上げるまでもなく、タイは一般的に中進国と呼ばれるカテゴリーに分類される経済水準に達しており、いわゆる途上国の範疇には入りません。加えて地政学的にも経済的にもメコン地域、そして ASEAN の要に位置し、自ら他国に対して援助を実施するほどの国となっています。もはや JICA が従来行ってきたいわゆる“途上国援助”を喜んで受ける国ではありません。一方、タイの JICA 事務所は 1974 年に設立されておりますが、それより遡る 1950 年代からすでに協力を続け、その長い協力の歴史を通じて日タイの強固な人的・組織的なネットワークの形成に貢献できてきたことを誇りに思っています。昨年 12 月にタイに赴任してきた私が出会ったタイ人の中には日本の大学への留学経験者、あるいは JICA の研修で来日経験を持っておられる方が多く含まれていました。加えてインフラの整備の面、例えばチャオプラヤ川にかかる多くの橋梁、バンコクのスワンナプーム国際空港や都市高速鉄道、現政権も力を入れている東部経済回廊 (EEC) (JICA による過去の東部臨海開発) は、現在のタイの人々の生活や経済活動にとってなくてはならないも

¹ <https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html#a01>

のであり、JICA が現在ミッションとして掲げる「質の高い成長」、まさにこれに大きく寄与するものだったのではないかと自負しております。

3. 未だ課題を残しながらも我が国のパートナーとなりうるタイ

この経済発展著しく、JICA が、そして日本がそこに大きく貢献してきたタイではありますが、まだ多くの、発展度合いから考えてややアンバランスとも言える未解決な課題を抱えているのも事実です。皆様よくご存知のとおり、タイにおいては本年3月、2011年以來8年ぶりの総選挙が実現し、2014年以降の暫定軍事政権下から初めての民主的な政権が誕生しました。プラユット首相は7月の施政方針演説において、最大の課題は格差の是正であると指摘しています。またある調査機関が昨年12月に発表した統計によれば²、タイは「世界一」経済格差が大きい国となっています。これは私自身がタイに赴任して来る前には思いもつかない事実でした。また、経済を担う中堅どころの技術者が不足していることは、将来タイが中進国の罠に陥らないためにも直ちに取らなければならない課題です。深刻な交通渋滞はタイの経済発展の可能性を大きく妨げていますし、ここ2-3年取り沙汰されている乾季のPM2.5や廃棄物処理等の環境問題は、バンコクに住む我々自身が日々直面する大問題です。

加えて、タイは我が国にとって、協力対象というだけの国でもありません。我が国と共通する課題が多く、代表例は高齢化問題です。タイはかつての日本より早いペースで日本ほど経済発展する前に高齢化社会に移行することが予測されています。例えばこのタイと日本が共通課題である高齢化問題を考慮した新しい交通手段や都市のあり方を共に考えることができれば、我が国だけで考えるより、更に斬新かつ画期的な課題解決に近づくことができるのではないのでしょうか。タイの人々は「新し物好き」ですし、モバイルバンキングなどは日本より進んでいます。このように考えますと、タイはまさに日本のパートナーとして協働でその解決策を探っていくことが可能な国であり、私が赴任してからお会いしたタイ政府の方々からもそのような関係を望んでいるとの多くの声を聞いています。

4. 大学の皆様との益々の連携の可能性

JICA は「質の高い成長」に加え、すべての人々が恐怖と欠乏から免れ、尊厳をもって生きる権利を有することを支援する「人間の安全保障」の考え方をミッションとして掲げています。「人間

² Credit Suisse Global Wealth Databook 2018

の安全保障」とは「誰も取り残さない」を標榜する 2015 年 9 月に国連サミットにて合意された持続可能な開発目標（SDGs）の中心的な要素でもあります。

THAILAND

East and South Asia

2019 Sustainable Development Report³ より、タイにおける SDGs の現状

162 か国中 40 位（日本は 15 位）

OVERALL PERFORMANCE

Index score

Regional average score



SDG Global rank 40 (OF 162)

CURRENT ASSESSMENT - SDG DASHBOARD



SDGs にはタイが抱える格差や環境、そして高齢化を含む保健医療などにまつわる重要な課題が上手く表現されていると言えましょう。タイの課題解決に向けて SDGs の野心的な数値目標の達成への貢献を目指したとき、JICA は過去中心的におつき合いしてきた政府や自治体だけではなく、民間企業や NGO はもちろん、やはり日々エビデンスベースで物事の本質に迫り、課題解決に勤しんでおられる大学や研究機関の皆様との連携や対話を強め、イノベーティブな技術や考え方を導入することが必要になっています。

JICA が実施する大学の皆様との連携例は様々ありますが、代表的なものとして、開発途上国の社会的ニーズをもとに我が国の研究機関と開発途上国の研究機関とが協力して技術協力プロジェクトの枠組みにより国際共同研究を推進する「地球規模課題に対応する科学技術協力（SATREPS）⁴」があります。タイにおいても日本の多くの大学からご応募頂き、環境・エネルギー、防災、感染症、生物資源分野における今日的な課題に取り組むべく、現在 8 件を実施／案件形成中です。

5. 最後に

JICA では「開発大学院連携⁵」と称する開発途上国の未来と発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後の援助実施国（ドナー）としての知見の両面を学ぶ機会を提供しています。日本は明治時代に欧米諸国から学者や技術者を招き、自国の文化と照らし合わせ、各国それぞれの良い制度を取捨選択して導入してきました。タイは

³ BertelsmannStiftung and Sustainable Development Solution Network

Table 6-5: Wealth shares and minimum wealth of deciles and top percentiles for regions and selected countries, 2018

⁴ <https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html#a01>

⁵ https://www.jica.go.jp/jica-dsp/about/ku57pq00002j4x3n-att/jica-dsp_aims.pdf

歴史上、一度も植民地にならなかった抜群のバランス感覚や外交能力の持ち主です。このタイにおいて、未来のトップリーダーとなるエリート層はもちろん、将来を憂えるより多くの方々に、近年どうしても目が向きがちな欧米の有名大学・大学院に進学するばかりではなく、日本「で」学んでもらうこと、あるいは日本「を」学んでもらうことを通じてタイの将来を考える手立てとしてもらいたいと考えています。タイと共に考え、タイに引き続き認めてもらうことが我が国にとっても価値のあることだと日々気持ちを引き締めて仕事をしています。

JICA タイ事務所としては、タイ、そしてタイがその中心的な位置や立場にあるメコン地域、ひいてはアジアの人々ひとりひとりが人間らしく、自分で人生の選択肢を持てる生活を送ることができるよう貢献するだけでなく、今後ますます新興国が多く出現するであろうこの世界において、新しい開発に貢献するための重要なヒントを提供してくれるパートナー、タイとの協働を意識しつつ、活動して参ります。その際には日本の大学の皆様と共に知恵を絞り、良い連携をさせていただくことが不可欠です。本稿にて触れた協力手法以外にも数多く大学の皆様と共に組み立てて頂く方法はございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上

センター活動記録

バンコク研究連絡センターの2019年7月から9月期のその他活動は以下のとおりです。センターにはタイ及びASEAN諸国との学術の国際交流を目的とし、日本やタイの研究者や高等教育関係者が訪れます。当センターは訪問者への現地での便宜供与や学術情報の交換・助言を行っています。詳しい活動記録は当センターウェブサイト (<http://jsps-th.org/>) に掲載しておりますのでご参照ください。

7月

- 1日 国立高等専門学校機構 国際企画課 佐々野海外プロジェクトファシリテーターの来訪
- 3日 the japan times 社 Mr.Phil Demack 氏らの来訪
国立高等専門学校機構 大村浩志事務局次長の来訪
- 5日 関西大学 西澤教授の来訪
- 9日 情報通信研究機構 河野アジア連携センター長の来訪
- 10日 荒川浩司 元青年海外協力隊調整員の来訪
元大阪大学バンコク教育研究センター長 関氏の来訪
- 22日 愛知医科大学 梅村講師の来訪
- 24日 九州工業大学 尾家学長らの来訪

8月

- 6日 首都大学東京 十津 URA 専門係長らの来訪
- 7日 文部科学省 三輪国際戦略企画室長らの来訪
- 13日 神戸大学 大西教授らの来訪
- 14日 北海道教育大学釧路校 川前准教授らの来訪
- 23日 神戸大学工学研究科 土肥教務学生係長の来訪
- 26日 福岡女子大学 梶山学長、日本学生支援機構 米川理事らの来訪
- 27日 北海道教育大学函館校 有井講師らの来訪

9月

- 9日 公立小松大学 木村副学長らの来訪
- 11日 岡山県ユネスコ連絡協議会 橋本事務局長らの来訪
- 13日 マレーシア科学大学 (USM) 日本文化センター 副田雅紀センター長の来訪
- 18日 ASEAN 日本政府代表部 宮澤一等書記官の来訪

国際協力員2名によるコラム「国際協力員の東南アジア見て歩き」です。初めてのバンコクで生活から、タイをはじめ周辺の東南アジア諸国の旅行記をお届けします。

国際協力員の東南アジア見て歩き① バンコク 赤バスとセンセーブ運河水上エクスプレスポート (臼井国際協力員)

バンコク市内には BTS スカイトレインや MRT メトロが走り、東南アジアの中ではかなり公共交通機関が発達しています。BTS と MRT は輸送の大動脈ですが、その間を補完するように路線バスやタクシー、観光客に人気のあるトゥクトゥクなどが走っており、どこに行くにも困ることはありません。

赤バス

バンコクの路線バスは運営者や路線によって色も型式も様々ですが、赤い車体で窓の無い赤バスはどこまで乗っても一律8パーツ~10パーツと格安かつ初心者にも乗りやすいのではないかと思います。とはいえ、バスに挑戦し始めた当初は、自分の乗ったバスが経路変更で思わぬところに向ってしまったり、乗り込もうとすると乗車拒否にあたり、戸惑うことが何度もありました。イレギュラーな事情がある場合は車体に標識が出ているのですが、タイ語が分からないためにそれに気が付かない、ということも後々判明するのですが・・・それでも BTS や MRT が走っていない場所に行くにはバスを利用するのが便利のため、めげずに何度も挑戦するうちに、「走っているバスに必ずしも乗れるわけではない」と認識が変わり、不思議なもので最近では「日本にはない乗り物」として楽しむ余裕が出てきました。



赤バスの車内風景

エアコンが無いため窓は全開

センセーブ運河エクスプレスポート

日本にない乗り物といえば、もう一つの私のお気に入りが入りかバンコクの中心を東西に流れるセンセーブ運河を運航するセンセーブ運河エクスプレスポートです。日本にも離島等で水上バスが運行されているようですが、バンコクほどの大都市の真ん中で、通勤通学などの日常用途に使用される定期運航ポートというのは、なかなか見つからないのではないのでしょうか。先述のとおり、このポートはバンコクの人々の日常の交通手段として使用されています。東の端はバーンカピ区のローカルなお寺・ワットシーブンルアンから、西は丘の上の寺院、ワットサケートのすぐそば、パーンファー橋のふもとまでの約18キロを結んでいます。

航路は観光スポットとしても人気のあるプラトゥーナム服飾市場の近くで東西に分かれており、始点から終点まで乗り継ぐには乗り換えが必要です。こちら乗船賃は初乗り10パーツで最大でも20パーツまでと格安です。運河沿いには南国の花々が植えられ、その周辺には木々が植えられ、大都会の真ん中を走っているとは思えない風景を楽しむことができます。



東西の分岐点 プラトゥーナム



ワットシーブンルアン

(写真・記事 国際協力員 臼井 真希)

国際協力員の東南アジア見て歩き① 職場近くの屋台を食べ歩き（濱端国際協力員）

今回は、職場の近くに位置し、主に昼食に利用させていただいている屋台を特集します。

オフィスワーカーがみんな気になるお昼ご飯事情。バンコクは「外食がおいしい」と言われているけど、本当のところはどうか？

今回は、特集を麺料理に絞り、★5つ評価でお送りします。ちなみにお店の名前は、無いところが多いので、掲載していません。

1. 環状線に近く、東南アジア感満載！のお店（評価:星4つ。★★★★☆）

ここは有名です！外国人の方も時々食べています。駅チカという立地も、プラスに働いています。環状線近くに位置し、車やバイクがブンブン飛ばしている横で、オープンエアで麺を食べる。なんとも東南アジア感！

気になるお味は…。美味しい！しっかりと鶏ガラで出汁をとっています。日本人の方でも、苦なく食べることが出来るのではないのでしょうか。なお時々、ラーメンの上に風呂吹き大根のようなトッピングをしてくれます。この大根が、バンコクに来た当初は、日本を思い出すことが出来て懐かしかった！

立地、味も良いですが、お値段が少し高いことがネックです。日本円で約 220 円。



2. 職場からすぐそこ！セブンの冷房を借りているお店（評価:星3つ。★★★☆☆）



このお店もオープンエアです。JSPS バンコク研究連絡センターが立地するビルから、徒歩 3 分くらいで到着します。周りのビルから、オフィスワーカーが集まってくるので、お昼は席の争奪戦になります。

立地は、太陽がギラギラと照り付ける場所です。しかしセブンイレブンの目の前なので、セブンにお客さんが入るたびに、その冷房の冷気が、客席に流れ出します。セブンがないと成り立たないお店です！

この麺料理は、日本人の「ラーメン」のイメージに近いのではないのでしょうか？ たっぷり乗せてくれる、焼き豚（ムーデー）が特徴です。（スープがぬるい、などなど）。いつもはもっと

でも、取材に来た日は味がふるわなかったのが残念おいしいのに…。またトライしたいと思います！

日本円で約 170 円。

3. ここはおいしい！ちょっと珍しい麺料理のお店（評価：星5つ。★★★★★）

巨大な食堂市場の中に位置するお店です。おいしい食べ物屋であることを示す「緑のどんぶり」マークを掲げています。このあたりは、宮城県仙台市の居酒屋が掲げている「緑のちょうちん」と、意味合いが似ていて面白いです。



さて料理です。麺は細い米麺です。スープは濃厚、とろみがついていて、いつまでもアツアツの状態を食べることが出来ます。タイでも珍しい種類だと思います。ベトナム風だと聞いた気がしますが…。

トッピングも、タイでは珍しく魚を入れてくれます。半ナマの白身魚の切り身を氷の上に陳列してあります。注文が入ると、その切り身をどんぶりの底部に置いて、アツアツのスープを注ぐことで火を通します。熱帯の国なので、魚の保管の仕方などで、抵抗のある方はいるかもしれません。

日本円で約 200 円。

珍しいし、おいしい。★5つです！口の中を火傷するので、市場内で買ったフルーツシェイクで、口腔内を冷やしながら楽しんでください。

以上、バンコクの麺料理をお伝えしました。こちらは、物価も安く、お昼ご飯一つをとっても、いろんな刺激に満ち溢れています。皆さんもタイにお越しの際は、ぜひぜひ楽しんでいってくださいね。

（写真・記事 国際協力員 濱端 悠佑）

■タイの科学、イノベーション計画について専門家がブレインストーミング

2019年7月18日、タイの国家科学研究イノベーション計画の草案を検討するための会議がセンチュリーパークホテルで開催された。

この会議はタイ科学研究イノベーション事務局 (the Office of Thailand Science Research and Innovation) の後を受けて発足した科学、研究、イノベーション推進委員会事務局 (the Office of the Science, Research, Innovation Promotion Board) が主催したもので、当日は科学、研究に関する17の分野からの専門家が出席した。

事務局長の Sutthiphon Jitpimolmart 氏によれば、同会議はタイの科学戦略および研究とイノベーションのための基本計画、さらに科学技術の改革のための計画を検討することを目的に開催されたもので、今回は2020年から2022年までの計画の草案について意見を集約すべく、公的機関と市民グループ双方から17分野200人の専門家が会議に招待された。

同会議では大学教育、研究、科学、イノベーション評議会 (the Undergraduate Education, Research, Science and Innovation Council) と協同で基本計画と戦略が検討された。

ブレインストーミングでは以下の7つのトピックが取り上げられ、ここから生まれたアイデアは国家科学研究イノベーション計画を策定する際に使用される予定である。

- 1) タイ人と生涯学習
- 2) 地域に根差した持続可能性と安全保障の構築
- 3) 環境と天然資源
- 4) 社会的平等と生活の質
- 5) 革新的産業
- 6) 革新的基盤と経済
- 7) 国の発展と生態学

大学教育評議会会長 (director of the undergraduate education council) である Kittipong Promwong 氏は、国家科学研究イノベーション計画の策定は喫緊に取り組むべき課題であり、国家戦略の主要計画に従って実施されると述べた。

同氏の説明によれば、この計画は社会の主要な課題 (科学イノベーション競争力強化、地域に根差した開発の開始、人材、大学及び研究機関の観点からの持続可能な科学技術の創造) 解決を目的としているとのことである。

(2019年4月15日 Bangkok Post 紙)

■高等教育科学研究イノベーション大臣 時代の変化への対応を大学に要請

Suvit Maesincee 高等教育科学研究イノベーション大臣 (Minister of Higher Education, Science, Research and Innovation) は大学に対し、テクノロジーと人口動態の変化に適応するよう呼びかけた。

大臣は、大学は学生数の減少と技術力の低下という2つの大きな問題に直面しており、時代に合わせて変化する必要があるとし、以下のように述べた。

「タイの出生率は急激に減少する一方で、テクノロジーは人々がいつでもどこでも学べるように進化している。急速に進んだ社会の変化に適合していかない大学は取り残されていくだろう。また、大学は雇用市場にいる3,500万人のスキルの向上に着目すべきであり、将来的に全ての年齢の人に開かれていなければならない。急速に変化する技術の世界では、全ての人がキャリアの中で何度でも再教育を受ける必要があり、大学で学ぶのに年齢制限はなくなるだろう。」

さらに大臣は大学に対し既存のカリキュラムを徹底的に見直し、時代遅れのカリキュラムを廃止するとともに、政府の政策に沿った新しいカリキュラムを策定するよう、以下のような期待を述べた。

「大学は自身の専門的強みを活かせる特定の分野に注力する必要がある。大学は学生と産業界が共同で現実世界の問題を解決する場所ではなければならない。近い将来、学生は学位取得のための多くの無関係な科目を4年間かけて履修する必要がなくなるだろう。学位をより柔軟にし、学生がそれぞれの能力に応じ、最も適したペースで最も有益な内容を学べるようにすべきである。大学は、学生に対しスキルのある労働者を生み出すために必要な知識を提供するだけでなく、生涯を通じ学習を継続できる準備をさせる場であるべきである。大学は学生に学ぶことと、分析・評価するための批判意識を持つよう教育する必要があり、学生が考える場となるよう変わらなければならない。」

「タイの大学の適応を妨げる規制を緩和することは、当省にとっての喫緊の課題である。最初の6ヶ月以内に規制緩和を完了することを目標に設定している。」

最後に大臣はこのように述べ、同省が、全ての大学が“急速に変化する21世紀の世界”に適応するための支援と、適応の妨げになるとと思われる規制を緩和する準備ができていているとしている。

(2019年7月21日 Bangkok Post 紙)

■高等教育科学研究イノベーション大臣 スタートアップ企業基金を創出 主要な法律を本格運用

Suvit Maesincee 高等教育科学研究イノベーション大臣 (Minister of Higher Education, Science, Research and Innovation) はイノベーションが好循環をもたらす経済を促進するため、創業間もないスタートアップ企業のための基金を創出し、スタートアップ企業を強化する3つの新しい法律を運用することを約束した。

World Intellectual Property Organisation による世界イノベーション指標 (Global Innovation Index) の今年のランキングではタイは昨年からはひとつ順位を落とし、129か国中43位となっているが、Suvit 大臣は500以上のスタートアップ企業が参加する Startup Nation 2019 tech conference in Bangkok (2019年7月25日~27日) の開会式に登壇し、タイ政府、民間部門、教育部門が協力し、イノベーションを通じて価値経済を推進するエンジンとなるスタートアップ企業の勢いが衰えぬよう努めることとし、次のように述べた。

「高等教育科学研究イノベーション省は若者が大学で学んだ興味深いアイデアに資金を提供し、彼らが後でスタートアップ企業を立ち上げることが出来るよう、若いスタートアップ企業のための基金を創出する予定である。この基金は政府、民間パートナー及び技術やイノベーション関連の企業から、20億パーツを拠出することが可能となっている。

またスタートアップ推進のための3つの関連法 (the startup Act, the Regulatory Sandbox Act, the Bayh-Dole Act) を本格的に運用する予定である。」

the startup Act は、税制上の優遇措置と外国人株主によるローカルあるいはグローバルなスタートア

ップ企業の設立を促進するもので、the Regulatory Sandbox Act は、スタートアップ企業が革新的なアイデアを試験的に実施できるようにするもの。the Bayh-Dole Act は研究者の知的財産権取得の権利を認める法律である。

これらの基金設立や法整備により価値あるイノベーションを促進するスタートアップ企業が生まれることが望まれる。大臣は「タイがスタートアップ企業の設立を経済成長の新たなエンジンと位置付けて4年になる。」と述べているが、かつてタイはその経済成長を大企業と外国からの投資に大きく依存してきた。

大臣によるとスタートアップ企業のために約500億パーツがベンチャーキャピタルとコーポレートベンチャーキャピタル (CVC) によって拠出され、そのうち350億パーツがCVCからの拠出となる。現在タイには、9つの産業分野でシリーズAおよびBの資金調達ラウンドの対象となる30のローカルスタートアップ企業を含む、2,000のアクティブなスタートアップ企業がある。そして約35大学、1,000の職業訓練校の10万人の学生がスタートアップコミュニティに参加しているとのことである。

(2019年7月25日 Bangkok Post 紙)

■私立大学 高等教育科学研究イノベーション大臣に提言

2019年8月1日、Suvit Maesincee 高等教育科学研究イノベーション省 (Ministry of high education, Science, Research and Innovation : MHESRI) 大臣は私立大学が抱える懸念に応じた支援を提供する手立てとして、タイ私立高等教育機関協会 (Association of Private Higher Education Institutions of Thailand : APHEIT) の代表者との会議を開く予定である。

Suvit 大臣は、私立大学には学生数の減少など多くの懸念事項があり、その上タイに進出している外国の高等教育機関との競争に直面していると認識していると述べた。

「まずは彼らの問題を聴取し、解決策を探りたい。」

APHEIT の代表で Kasem Bundit University 学長の Dr. Wallop Suwantee は、新しい公的高等教育機関法および新しい高等教育科学研究イノベーション省の構造に合わせるためにはどのように私立高等教育法を修正すべきか Suvit 大臣と話し合いたいと述べた。

Dr. Wallop はさらに、APHEITは新省の設立により、私立大学に重荷を課す二重の基準と不公平な慣行の問題に取り組むことを期待しているとも述べた。

APHEITによれば、いくつかの規則は私立大学に影響を及ぼす二重の基準を作り出しているという。

Dr. Wallop は「高等教育科学研究イノベーション省には、私立大学と公立大学が同じ土俵に立てるよう、このような規則を廃止してもらいたい。Suvit大臣は公立大学の資格に関する一部の規制を解除すると聞いている。私立大学に対しても同様の取り計らってもらいたい。また、学生数の減少についても話し合いたい。」と語った。

(2019年7月30日 The Nation 紙)

■マヒドン大学 企業と食品イノベーション研究開発協定を締結

マヒドン大学は全てのタイ人の持続可能な健康に向け、全ての年齢の消費者のニーズに応える健康食品のイノベーションを開拓する研究開発協定を Charoen Pokphand Foods (CPF) と締結した。

マヒドン大学薬学部学長の Suvatna Chulavatnatol 氏はこの協定は社会に貢献する革新的な食品開発事業となると述べた。

「CPF との協力により、大学の知見を活かした、質の高い生活と持続可能な社会発展のための食品の創造を目指す。さらに、この提携により食品開発のネットワークも確立されるだろう。このネットワークは製品に価値を与え、経済成長も促進させるし、これは官民の協力によりタイランド 4.0 を達成するという政府の政策にも合致している。」

一方で、医薬の知識は食品技術開発に応用され、栄養補助食品の開発やタイの研究能力の向上と長期的な大学レベルの教育への道を開くだろう。

CPF 代表取締役副社長の Sommai Tachasirinugune 氏は「世界の持続可能な台所 (Sustainable Kitchen of the World)」というビジョンの下、同社は食品の研究開発に対して強い責任を持っていると述べた。

「CPF の食品研究開発センターは世界中の大学と協力して栄養補助食品の包括的な研究を行っており、変化する人口統計と食品産業の需要に対応し、あらゆる年齢の消費者に良好な栄養を提供する食品と飲料を広めている。

また当社は、国連のすべての人の持続可能な健康のための健康食品開発目標に沿い、企業の社会的責任と持続可能性の目標として、

2020年までに新製品開発の30%以上を健康食品にすることを掲げている。」

(2019年8月8日 The Nation 紙)

■チームワークで EEC のニーズを満たせ

大学間の協力を促す副首相

Somkid Jatusripitak 副首相は東部経済回廊 (EEC) に必要とされる大量の熟練労働者を供給するため、タイの大学に対し、海外の連携機関や企業と連携するよう促した。

Somkid 副首相は2019年8月19日、高等教育科学研究イノベーション省 (Higher Education, Science, Research and Innovation Ministry: MHSRI) の高等教育部門代表者との会議の場で以下のように述べた。「大規模大学は EEC 域内に支部を設立して業と協力し、産業界が望むような技術力と潜在能力を持つ労働者を輩出するためのより高度なプログラムと短期トレーニングコースを設けるべきである。また、タイの大学が世界のトップ大学とパートナーシップを結び、自らを向上させ、タイの教育にまだリソースと人材が不足している分野のギャップを埋めることを奨励する。多くの外国人投資家が EEC への投資に関心を示しているが、依然として熟練労働者の不足が彼らの主な懸念となっている。彼らの信頼を得るために今は競争ではなく協力しなければならない。」

最近の EEC 事務局の調査によると、EEC の対象となる 10 のエスカーブ産業の労働者の需要は、今後 5 年間 (2019-23) に 475,000 人に達するとされる。現在、東部地域の専門学校および大学は、熟練労働者に対する EEC 需要の 30% しか満たせない。

必要とされる 475,000 人の職のうち、60% が有資格の技術および職業労働者であり、40% が学士号および修士号を取得した熟練労働者である。熟練労働者を緊急に必要としている分野には、スマートカー及びスマートエレクトロニクスが含まれる。

Somkid 副首相は、国家戦略に積極的に対応している大学には援助と資金予算が提供され、高等教育部門と協力する民間企業は税制上の優遇措置を受けるだろう。一方で、就職しない卒業生を輩出し、労働

市場のニーズに応えられない大学は、資金削減の打撃を受けるだろう、と述べた。

一方、MHSRI 大臣の Suvit Maesincee 氏は、政府は長期的な経済発展を促進するために、今後5年間で研究開発費を現在の約1.1%からGDPの1.5%に引き上げる目標を設定したと述べ、以下のように語った。

「イノベーションは国の競争力を高め、GDPの成長を促進するために重要であり、タイのビジネスが付加価値のある商品と競争力を備えてデジタル時代に入ることを確実にするため、企業は研究開発により多くを費やすことを奨励される。今後5年間で、タイ全体の研究開発投資額の25%は政府が、残りは民間部門に占められるようになるだろう。」

(2019年8月20日 The Nation 紙)

■内閣府 370 億バートの科学イノベーション計画を支持

タイ政府は、国の競争力を高め、少子高齢化や環境問題等に対応するため、今後8年間で野心的な科学研究とイノベーション開発の枠組みに370億バートを投入する。

政府副報道官の Ratchada Thanadirek 氏は来年から始まるこの取り組みに内閣が2020年度予算から資金を拠出することを決定したと語った。

「我々には最新の研究開発により経済的社会的問題を解決するための多くの事業とそれらの結果を評価するための明確な指標がある。例えば国際経営開発研究所 (International Institute for Management Development : IMD) の世界競争力ランキング (World Competitiveness Ranking) におけるタイの順位を上げることも主要な課題の一つである。」と Ratchada Thanadirek 氏は述べた。

タイは2018年の同ランキングで30位にランクインし、2017年の27位からランクを落としたが、第12次社会開発計画 (2018—2022年) では、25位にランクインしなければならない。

政府はまた、少なくとも5,000のAI関連中小企業の生産性を高め、1,000の新しいローカル・スタートアップが「生き残る」ことを計画していると Ratchada Thanadirek 氏は述べた。

また政府は、2021年までに研究者の数を人口10,000人あたり25人に増やすことも目指している。

高等教育科学研究イノベーション省 (Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation : MHSRI) の Suvit Maesincee 大臣は370億バートのうち2億バートを量子技術 (原子レベルで小さな粒子を扱う物理学分野) の開発に投入すると述べた。

レーザーや増幅器技術は量子科学の知識に基づいており、この技術はまたコンピューティング、センシングおよび医療イメージングなどへの幅広い応用が可能である。

Suvit Maesincee 大臣は9月中にタイの量子技術の専門家42人がタイ国立量子技術研究所を設立するためのブレインストーミングを行う予定であると述べた。

Ratchada Thanadirek 氏は、社会的な側面では、政府はすべての年齢とあらゆる状況にある人々のために、ユニバーサルデザインに基づいたイノベーションの開発を支援すると語った。

今後2年間でタイは5人に1人が60歳以上という高齢化社会を迎え、多くの人々が自分のライフスタイルに合った環境を必要とするようになるであろう。

環境分野においては、政府は専門家にゴミを減らし、PM2.5と戦う方法を開発するよう奨励する、と Ratchada Thanadirek 氏は付け加えた。「我々は有害なレベルの粉塵によって汚染される日数を減らしていく。」

(2019年9月1日 Bangkok Post 紙)

■入試結果 早期公表へ

タイ大学長会議 (Council of University Presidents of Thailand : CUPT) は、不合格者が次のラウンドの入試に申し込むことが出来るよう、来年はタイ大学統一入学制度 (Thai University Central Admission System : TCAS) の第4ラウンドの試験結果を早く公表する予定である。

CUPT 事務局長補佐の Peerapong Triyacharoen 氏は以下のように語った。

「第4ラウンドまでの全国共通試験で合格できなかった受験者が個々の大学が実施する第5ラウンドに申し込めるよう、結果を1日または2日早く公表する。また、第4ラウンドで合格した受験者に進学先の確定を求めるように申請システムを更新している。」

CUPT は第 4 ラウンドで合格した受験者が席を確保しながら第 5 ラウンドも受験し、良い大学を「物色する」機会を与えず、まだどの大学にも合格していない受験者のために第 5 ラウンドを用意したいと考えている。

毎年何千人もの受験者が合格した大学に満足できないという理由だけで第 4 ラウンドでの合格を蹴り、より良い大学を求めて第 5 ラウンドを受験している。

実際のところ、このような受験者はまだ合格していない他の受験者に与えられるべき機会を奪うことになり、不公平であると言える。

なお、第 4 ラウンドの試験スケジュールを変更しても TCAS の他のラウンドに混乱は生じない。」

(2019年9月13日 Bangkok Post 紙)

■メーファールアン大学とマヒドン大学が世界大学ランキングでタイのトップに

メーファールアン大学 (Mae Fah Luang University) とマヒドン大学 (Mahidol University) は、シンガポールが今年も東南アジアのトップとなっている世界的な調査で、タイの高等教育機関のトップとなった。メーファールアン大学がトップになるのは今回が初めて。

2019年9月12日に発表された Times Higher Education (THE) 誌の世界大学ランキングでメーファールアン大学とマヒドン大学が 601-800 位にランクインした。

チェンライ県にあるメーファールアン大学 (Mae Fah Luang) は、論文引用数と国際性で高いスコアを獲得し、マヒドンは卒業生の収入で最高の成績を収めた。

国際性は、キャンパスの留学生、外国人教職員数によりスコアが決まる。

チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University) はタイの大学で唯一 801-1,000 位にランクインした。タイからは他に以下の 13 大学が 1,000 位以下のグループにランクインした。

- ・スラナリー工科大学 (Suranaree University of Technology)
- ・キングモンクットトンプリ工科大学 (King Mongkut's University of Technology Thonburi)

- ・チェンマイ大学 (Chiang Mai University)
- ・コンケン大学 (Khon Kaen University)
- ・プリンスオブソングラー大学 (Prince of Songkla University)
- ・シラパコン大学 (Silpakorn University)
- ・ナレスワン大学 (Naresuan University)
- ・シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)
- ・タマサート大学 (Thammasat University)
- ・マハサラカム大学 (Mahasarakham University)
- ・カセサート大学 (Kasetsart University)
- ・キングモンクットノースバンコク工科大学 (King Mongkut's University of Technology North Bangkok)
- ・キングモンクットトンプリ工科大学 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)

「タイは再び 16 のランクイン機関を擁するアセアン地域で最も存在感のある国となった」とタイムズ紙は語った。今年の調査でタイのランキング入り大学は 2 校増えた。

マヒドン大学は昨年に続き 601-800 位にランクインし主要大学としての地位を維持した。

THE 誌の世界大学ランキングでは 200 位以下の大学には特定の順位を付けていない。

多くの大学がランク入りしているものの、タイの高等教育機関はシンガポール、フィリピン、ブルネイ、マレーシアに後れを取っている。

シンガポール国立大学 (National University of Singapore) は 25 位でアセアン内のトップを維持し、同じくシンガポールの南洋工科大学 (Nanyang Technology University) は 48 位にランクインした。

マレーシアのマラヤ大学 (The University of Malaya) は 301-350 位にランクインし、アセアン内で 3 位に留まり、フィリピン大学 (the University of the Philippines) とブルネイダルサラーム大学 (Universiti Brunei Darussalam) (初めてのランクイン) は 301-350 位にランクインした。

今年ブルネイとベトナムの大学が初めて加わり、アセアン7カ国から、昨年より9大学増えた43大学がランキング入りを果たした。

ランキング編集者のEllie Bothwell氏は声明で、「これらの国が量と質の両方をさらに改善するためには、高等教育に投資し続けなければならない」と述べた。

英国のオックスフォード大学 (University of Oxford) は4年連続で1位にランクインし、米国のカリフォルニア工科大学 (California Institute for Technology) と英国のケンブリッジ大学 (University of Cambridge) が2位と3位にランクインした。

中国の清華大学 (Tsinghua University) がアジアでトップの23位にランクインし、ライバルの北京大学 (Peking University) はすぐ下の24位にランクインした。

同ランキングには92カ国から1,300の高等教育機関が掲載されている。

(2019年9月13日 Bangkok Post 紙)

■学生にEECへのキャリアパス選択を促すプロジェクト

2019年11月、中等教育課程の学生と教員を対象に、STEM (Science Technology, Engineering, and Mathematics) 教育として知られる学際的統合分野について学ぶ機会が提供される。

東部経済回廊 (EEC) 副事務局長のTasane Kiatpatraporn氏は、EEC事務局は2017年に知識管理開発局 (Office of Knowledge Management and Development: OKMD) と共同で「EEC Innovative Role Model」という中学生向けのプロジェクトを実施しており、これまでに、計4,800人の学生と教師がこのプロジェクトに参加したと述べた。

このプロジェクトは、EECの掲げる重点産業に専門的技術を持つ労働者を送り出す需要の高さが反映されている。

今年の第2フェーズでは、このプロジェクトは新たに500人の学生に科学技術に深い関心を持たせ、分析的思考と実践的なアプローチを教えるために、500人の「変革の率先者となる」教師を訓練することを目的としている。

タイ東部のチョンブリ、ラヨン、チャチュンサオの3県にまたがるEECは10の重点産業 (次世代自動車、スマートエレクトロニクス、医療・健康ツーリズム、農業・バイオテクノロジー、食糧、産業用ロボット、物流・航空、バイオ燃料・バイオケミカル、デジタル、医療サービス) に注力している。

OKMD理事のApichart Prasert氏は以下のように語った。

「我々は興味深く効果的な学習プログラムを開発することにより、EEC労働市場に対応する学習分野とその後のキャリアパスを学生に選択させるよう、準備ができています。

我々は科学技術を学ぶことにより学生を幸せにし、また科学、技術、工学、数学の知識を得ることに加えて、芸術、創造性、分析的思考、問題解決、チームワークについても学ぶことが出来るだろう。このプロジェクトに参加することにより、学生、教師、EECの地域住民が自身を向上させることに注意を払い、労働市場の需要に合わせて知識とスキルを身に付けることができるようになることを期待している。」

11月には、2つの主要なイベントが予定されている。まず、2日間に渡り開催される「現代教育のための統合技術 (Technologies Integration for Modern Education)」トレーニングセッションではIoT及びその活用方法、創造的な2D、3Dグラフィックとアニメーションの作成、実用的ウェブサイトおよび携帯アプリの開発、ゲームおよびエンターテインメントメディアのためにVRおよびAR技術、自動ロボット制御、AI、機械学習、未来に向けた教育および学習スキルといった分野がカバーされる。

2つ目はロボット技術キャンプ、ゲームおよびアニメーション技術キャンプ、宇宙航空キャンプ、IoTインターネットキャンプで構成されるEECイノベーションニュースキャンププロジェクトで、それぞれ開催期間は1日である。

(2019年9月24日 The NATION 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センター アクセス&コンタクト

アクセス

高架鉄道 (BTS) Asoke 駅、1 番出口から徒歩 5 分
地下鉄 (MRT) Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩 5 分

コンタクト

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159
Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand
Tel +66-2-661-6533 Fax +66-2-661-6535
Website: <http://jpsps-th.org> Email: jpspsbkk@jpsps-th.org
facebook: JSPSBangkok



■ 表紙写真紹介



ピーターコン祭り (ルーイ県、タイ)

今回の表紙はタイ、ルーイ県で毎年 6 月～7 月頃に開かれる奇祭「ピーターコン祭り」から。このお祭りは有名な仏教説話をもとにしており、収穫前の雨乞いや、厄払いの意味があります。

誰でも参加することが出来、みな、色とりどりの仮面で町を練り歩いています。

こぢんまりとしたルーイの町は、この時期だけ、にぎやかな雰囲気になります。

■ 編集後記

2019 年度第 2 号の「バンコクの風」をお届けいたします。

今回の特集記事は「タイにおける JICA の取り組み～大学の皆様との連携の可能性」と題し、国際協力機構 (JICA) タイ事務所の宮崎桂事務所長にご寄稿いただきました。大変お忙しいところご協力いただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

さて、2019 年度もいよいよ折り返し地点、我々国際協力員の任期も残すところあと半年となりました。後半にはバンコクセンターが所管する国々の同窓会シンポジウムや当センターの開設 30 周年も兼ねたタイ NRCT 及び JSPS タイ同窓会と共同開催のシンポジウムなど、ビッグイベントが控えています。本稿編集集中の 9 月末現在は 10 月開催予定の JSPS ネパール、インドネシア同窓会のシンポジウム準備の真っ最中です。ネパール同窓会はカトマンズで、インドネシア同窓会はボゴールで開催されますが、前者は濱端国際協力員が、後者は私、臼井がセンター長、副センター長と共に参加いたします。インドネシアに行くのは今回が初めてで、多少の不安もありますが JSPS の事業を経験し、それぞれの国で活躍されている研究者の方々とお会いできる機会、色んなことを吸収できればと思います。次号ではこのシンポジウムの様子もお伝えする予定です。

(バンコク研究連絡センター 国際協力員 臼井 真希)

JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」

監修：山下邦明 編集長：富山大
編集担当：臼井真希